

松原城跡 第1回現地説明会資料



曲輪 2

曲輪 2

丘陵の西側に造られた約 25.0m×30.0mの大きな曲輪です。周囲は南西側～東側の三方面を土塁に囲われ、南側に虎口があります。南東側は土を盛って平らに造成することで、曲輪全体を四角形にしています。建物跡は確認できませんが、北西側の土塁に沿って石敷きの遺構が見つっています。この石敷遺構の性格は、今のところ不明です。



石敷遺構

曲輪 2 土塁

曲輪 1 側を除く三方向を囲んでいます。北隅が一番高く、高さ約 3 m を測ります。北西辺の頂部や南西辺の斜面部には径 10~20 cm 大の礫が並べられている部分があります。北東辺はわずかに「く」字状に屈折しています。

まとめ

今回の調査では、高い土塁に囲まれた曲輪 2 と石敷遺構が発見されました。街道側の土塁がより高く、防御性を高めています。また、同様に防御性を高めるために、街道側に武者溜まり (曲輪 4) を設けています。

松原城は、織田信長の三田城攻めの際には、織田方の付城として改変され補給基地の役割を持っていたと考えられますが、万一、前線が突破された際に防御できる機能も併せ持っていたようです。

発掘調査は、まだしばらく続きます。今後も新たな発見があるかもしれません。ご期待下さい。

※ 用語解説 /

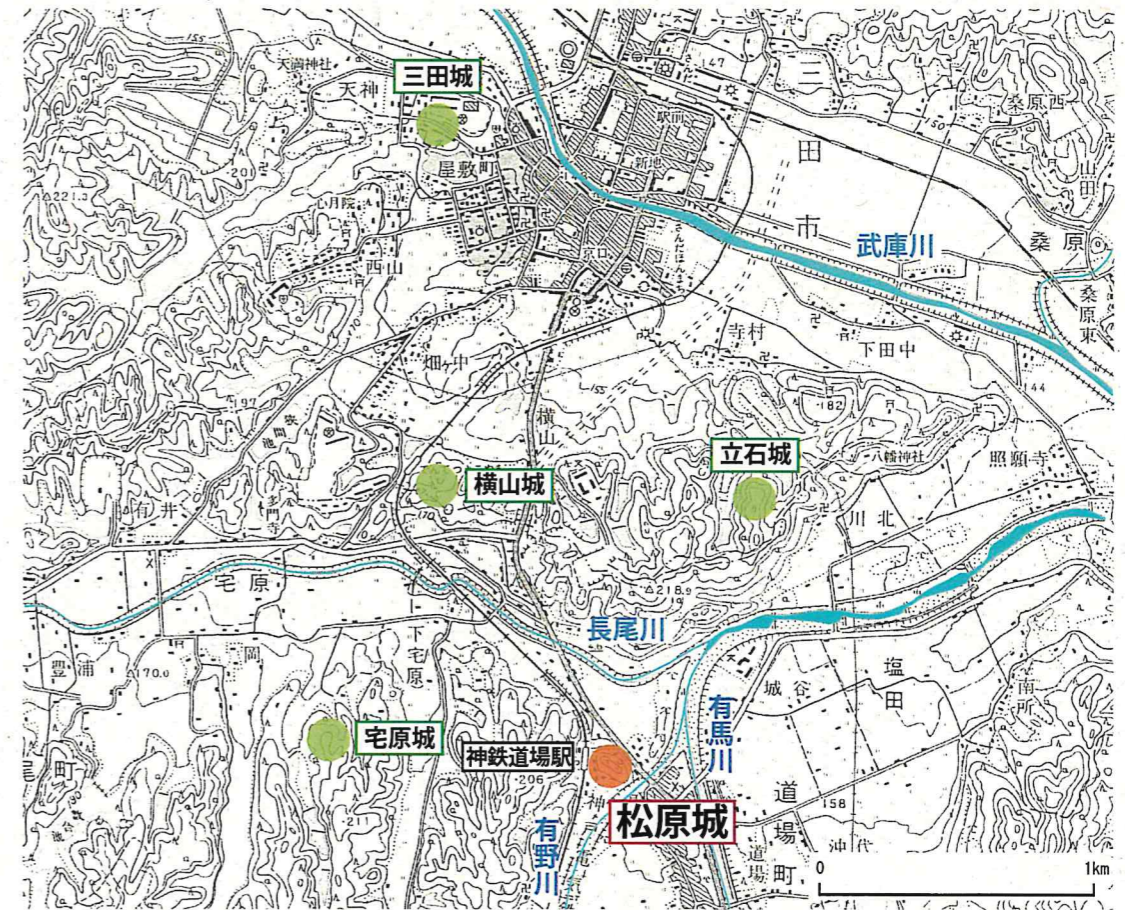
- 【曲輪】 山を削ったり盛土して造った平坦面
- 【土塁】 土盛りした防御するための施設
- 【切岸】 山を削ったり盛って、防御のために急斜面としたもの

- 【堀切】 深い溝状に掘った防御するための施設
- 【虎口】 城の出入り口
- 【腰曲輪】 斜面の中腹に設けた曲輪

松原城跡は、「^{たんぼぼ}蒲公英城」「^{くさかべ}道場川原城」とも呼ばれ、神戸市北区道場町日下部に所在しています。城跡は有野川と有馬川が合流する地点の西側にある比高差約 25mの独立丘陵上に立地します。すぐ東側には大阪から日本海側に抜ける主要街道である丹波街道が通り、北側には播磨方面へ向かう街道の分岐点があるなど、交通の要衝でした。

この城は、南北朝時代 (14 世紀後半) に築かれ、戦国時代の終わり (16 世紀末) まで存在していたとの伝承があります。住宅地として利用されていたこともあり、一部の改変はあるものの、二つの大きな^{くるわ}曲輪や^{どるい}土塁、^{ほりきり}堀切が明瞭に残る城跡として知られていました。

この度、宅地開発工事に伴い、平成 31 年 3 月から丘陵全体を対象として、城跡の西側から発掘調査を実施しています。その結果、土塁や堀切、急な崖面である^{きりぎし}切岸などの西半部における城内部の状況がわかってきました。



松原城跡位置図



曲輪6

曲輪2北西辺北側の斜面下端に位置します。長さ10.3m、最大幅3.5mで、斜面側に石積みして盛土することで、平坦面を造り出しています。ここから西側の斜面にかけて、丘陵の裾は岩盤を削り出して垂直に近い崖面になっています。



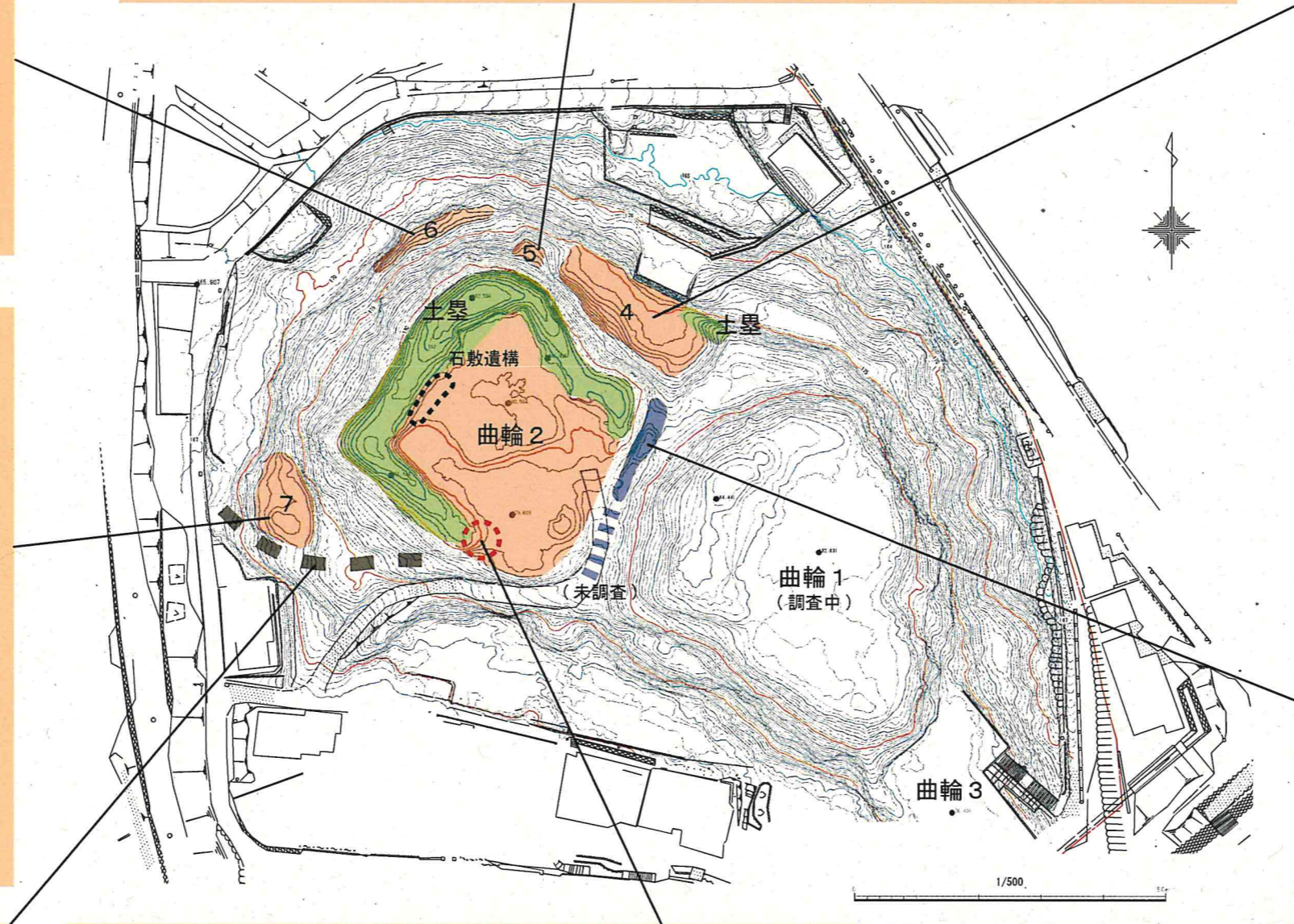
曲輪5

曲輪2の北東側、曲輪4の西側に接して位置します。平坦部の大きさは南北4.0m、東西4.6mで、曲輪4に比べて約2m高い場所にあります。南東辺の裾には石列があり、これを基底石として上部に盛土を行って整形されています。南東側は階段状に石材が並び、曲輪4から登れるようになっていますが、北西側は急斜面になっています。ここは北側から、あるいは曲輪4への侵入を防ぐ迎撃の基点として機能していたと考えられます。



曲輪4

曲輪2の北東側に位置する長さ29.5m、最大幅10.5m、面積約200㎡の曲輪です。南西辺には曲輪2の土塁に沿って岩盤を加工した急斜面の切岸があります。また東端には上の曲輪から続く土塁が残っています。建物等の痕跡は確認出来ていませんが、炭溜まり土坑1基とピット2基を確認しています。遺物は、土師器、陶器、磁器が出土し、南西部からは小刀と思われる鉄製品も出土しています。腰曲輪(※)の中では規模の大きな曲輪であり、戦いの際に兵が駐屯する場所(武者溜まり)と思われます。



曲輪7

曲輪2西側につけられた長さ約19m、幅約9mの曲輪です。曲輪2側は岩盤を削り出し、西側は盛土することで平坦面を作っています。この方面には登城道があり、ここから攻めてきた敵を攻撃するために造られたと考えられます。



堀切

曲輪1と曲輪2の間につくられた断面の形が逆台形の堀です。堀底の幅は2.0～3.1m、曲輪2の土塁上との比高差は約4.0mあります。現在のところ、北側半分のみ調査を行っていますが、北端は両側面に石を積んだ盛土でふさいでいたことがわかりました。また、この堀切の底は岩盤を削って平らにしています。そのため、この堀切は敵の侵入を防ぐためだけでなく、城内部を行き来するための通路としても使用されたと考えられます。

とじょうみち 登城道

城の南西側から南斜面を反時計回りに登る道です。後世の改変も著しく、城が機能していた時期のものかどうか現段階では不明です。



こぐち 虎口(※)

西からの登城道とされている道から城内に入る部分です。土塁を左に回り込むように曲輪2に入ります。また、土塁端から曲輪側に直交して石列があり、曲輪2への入り口に伴う施設と考えられます。

